

学番	中等 2	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校
----	------	----------------

平成 27 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告		
学校運営方針	保護者と地域の期待に応え、豊かな人間性と創造力を身につけ、国際的な視野をもち、社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。 そのために、「学校は学ぶところ」という基盤に立ち、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。 (1) 自立して生きるための基礎となる学力 (2) 他者と協力して生きるための豊かな心 (3) 自己実現のために必要な気力及び体力	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標 ----- つけたい力
家庭学習時間の目標達成率は、前期課程 80.2%、後期課程 21.7%であった。 キャリア教育として、講演会、職場体験、社会研修旅行等を実施した。	学力の伸長及びキャリア教育の充実 （中高一貫教育を活かし、優れた専門性の基礎づくり）	・家庭学習時間の目標達成率 100% ・課題提出率 90%以上 ・勤労観・職業観育成のための体験活動の充実 ・講演会等の充実 ----- ・学ぶ目的や働く意義の理解を通し、自分の将来に目標をもち、主体的に学ぶ力を育成する。 <キャリアプランニング能力（ひらく力）> 【みらい】
大学等進学率 89.6%、達成率 93.2%、国公立大学進学率 39.0%、難関大学進学率 2.6%であった。	全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着	・大学入試センター試験における国公立大学型受験率 90%以上 ・国公立大学進学率 50%以上 ・難関大学進学率 10%以上 ----- ・自分の希望進路の実現を見据え、課題を見つけ、分析し、計画を立てて解決する力を育成する。 <課題対応能力（やりぬく力）> 【いきる】
生徒指導、いじめ不登校対策委員会を中心に、いじめの疑いに係わる情報交換を密にし、いじめの未然防止、早期発見、対応に努めた。不登校事案に対しては、校内の支援体制を活用し、関係機関や家庭と連携して支援を行った。 「挨拶ゾーン」を設け、当番の生徒を割り当てて朝の挨拶運動を実施した。 LFP（リーダーシップ・フォロアシップ・プロジェクト）を 8 回実施した。	公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 （高い倫理性の基礎づくり）	・いじめ見逃しゼロ ・不登校生徒数の減少 ・挨拶・清掃の励行 ・自主的な時間管理（集会の 5 分前集合） ・LFP の充実 ・人権学習の充実（人権教育研修会の実施） ----- ・自分の役割を理解し、他者と協力して、積極的によりよい集団や社会を形成しようとする力を育成する。 <人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）> 【ひと】
全国大会に囲碁・将棋部、日本文化部（百人一首）が、北信越大会に特設水泳部が出場した。	心身鍛錬及び健康管理の充実（自己実現に必要な気力・体力づくり）	・体力テストの T スコア 全学年 50 以上 ・部活動加入率前期課程 80%以上、後期課程 70%以上 ・発達段階に応じた保健講座の充実 ・チャレンジウォークで全員完歩 ----- ・自分の個性や特徴を理解し、向上心をもって主体的に行動する力や、自分の考えや感情を律し、あきらめずに努力する力を育成する。 <自己理解・自己管理能力（みつめる力）> 【じぶん】
志願児童は 82 人であった。 学校説明会は校外で 2 回、校内で 5 回実施し、小学校への訪問説明会は 21 校で実施した。	地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・学校 PR 活動の充実 ・地域とかかわる校外活動の充実 ・学校説明会及び小学校への訪問説明会の充実 ・学校ホームページの活用 ----- ・地域の小・中・高との交流や校外活動を通して、社会や母校に貢献しようとする意欲を高める。 <小中高の連携・社会貢献（郷土愛・愛校心）> 【あい】

□教務部

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育校の強みを活かした長期的、発展的な「総合的な学習の時間」や学校行事の見直しを継続して検討する。</li> <li>・L Fプロジェクトにおける課題研究活動、発表活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善が必要と思われる行事について見直し案を検討し提案をはかっていく。</li> <li>・L Fプロジェクトに「海外研修旅行」をテーマとした課題研究、発表活動を取り入れる。</li> </ul>	A
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中(夏・冬)の登校学習を実施し、生徒の学習への取組の強化をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年部・教科と連携をはかり、生徒が計画的、効果的な学習が行われるように実施計画の立案を図る。</li> </ul>	A
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・L Fプロジェクトの内容の充実と活動を定着化させる。</li> <li>・リーダーシップ、フォロアーシップの意識の定着を図る。</li> <li>・思いやりの心やボランティア精神を育む活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の活動で全員が必ずリーダーとフォロアーになる機会をつくる。</li> <li>・年間の活動の中に流れをつくり、班の絆をより深める。</li> <li>・地域貢献活動の充実を図る。</li> </ul>	A
心身鍛練及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジウォークの運営面の改善を図り、生徒の気力・体力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が自分の限界に挑戦できる適切なコースづくりを工夫する。</li> <li>・チャレンジウォークの事前指導、事後指導を工夫する。</li> </ul>	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のPRに効果的な見やすいHPとするため、レイアウト等の改善をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のPRとして効果的な行事などの情報を、迅速に掲載する。</li> <li>・定期的に更新をする。</li> </ul>	B

□生徒指導部

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事の準備、運営を通して、勤労観や職業意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭、文化祭、球技大会など各種行事において、委員会、係の仕事を責任持って行うことで、実際の社会で働くことを疑似体験し、全体のために働くことを学ぶ。</li> </ul>	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現のための教育相談を充実させる。</li> <li>・学習時間を確保するために、基本的な生活習慣を確立させ、生活にリズムを取り入れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の学校生活アンケートを実施し、それに基づいた教育相談を行い、進路実現のために適切な支援を行う。</li> <li>・各学年と連携して、定期的な生活実態を調査し、学習時間の基盤となる基本的な生活リズムが作れるよう指導する。</li> </ul>	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなトラブルでもいじめに発展しないよう、常に情報収集と情報共有に努め、組織的に早期の問題解決を図る。</li> <li>・登校しにくくなっている生徒の情報を常に共有し、欠席しがちな生徒に適切な支援を行う。</li> <li>・明るく元気な挨拶が自然に飛び交う学校づくりを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、分掌など各部会で定期的に情報交換する。情報交換シートなどを活用して、その情報を学校全体で共有し問題解決に当たる。</li> <li>・いじめ・不登校対策委員会を中心とした支援体制を確実に機能させる。</li> <li>・各部と連携を取りながら個別支援計画を作成し、支援に当たる。</li> <li>・自発的に自然な挨拶ができるよう「挨拶運動」を定期的に行う。</li> </ul>	B
心身鍛練及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の練習を通して、限られた時間の中で効率的に練習することで、進路実現に必要な自己管理能力を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた短い時間の中で、最大限の効果が得られるよう、自発的に考え、創意工夫して練習するよう促す。</li> </ul>	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を通して、学校の取り組みを地域の人や児童に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭、文化祭などの学校行事において、地域の人が参加したり、学校活動を紹介したりする機会を設け、学校に対して一層関心を持ってもらう。</li> </ul>	B

□進路指導部

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間を見通した進路指導計画のもと、進路学習や進路講演会などを実施し、生徒が将来のビジョンを持てるようにする。</li> <li>・生徒に適切な進路情報を提示する。</li> <li>・学習習慣を定着させ、学力の伸長を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成に関する講演などを発達段階に応じて計画的に行う。また、年間指導計画を随時、見直しをして、より効果的な進路指導計画を作成する。</li> <li>・学年便りなどを通して、進路情報を提供する。</li> <li>・家庭学習時間の調査を行い、学年部と連携して、個に応じた学習指導を行う。</li> </ul>	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を実施し、調査結果を基に適切な進路指導を行う。</li> <li>・土曜講座、課外学習、学習合宿などを実施し、生徒の学力を向上させる。</li> <li>・模擬試験を実施し、生徒の学力向上に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査や模試の結果などを分析し、生徒の個別面談などを実施する。</li> <li>・土曜講座、課外学習、学習合宿などを計画的に実施し、生徒の学力を向上させる。</li> <li>・模擬試験後に学習到達度や状況を分析し、教科、進路指導に活用する。</li> </ul>	A
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SACや職場体験学習などの集団活動において、規律を守ることや挨拶に対する意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SACや職場体験学習などの事前指導や活動中の指導を適切に行う。</li> </ul>	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開を実施し、保護者や地域の方々に授業を見てもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを実施し、その結果を参考にして、授業公開を実施する。</li> </ul>	A

□ 1 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の時間を確保した生活リズムを各自が確立し、授業の予習・復習を習慣化する。</li> <li>毎日の課題の提出を徹底する。必要に応じて個別指導を実施し、学力の定着を図る。</li> <li>家庭との連携を図り、相互の理解と協力で学力の伸長と生活の安定を促す。</li> <li>学校・学年・学級の様子を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>終学活を利用して「その日の学習計画」を立て、実行する。</li> <li>課題解消のための放課後学習会・休日学習会を定期的に行う。</li> <li>家庭訪問や面談・PTA活動等を計画的に行う。面談等の内容を吟味し、タイミングを逃さず、支援を行う。</li> <li>学年便りを毎週発行する。</li> </ul>	A
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる角度からの自己理解を進める。</li> <li>学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結びつけ、明確な将来像を描く。</li> <li>各自の将来設計ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種活動における「振り返り」を必ず行い、自己の成長を意識させる。</li> <li>「大学見学」「職場見学」など、職業や生き方について考える機会を設定する。</li> <li>進路希望調査を年に二回行い、それに基づく進路面談を実施する。</li> </ul>	A
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の仕事に進んで協力し責任をもって取り組ませる。</li> <li>個の違いを理解し、個が高まることで集団が育ち、その上で個がさらに高まることを、生徒各自が理解し、行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食当番や清掃当番、係活動など自分の役割分担を明確にする。</li> <li>保健講座と連携し、「学校生活改善プロジェクト」に取り組む。</li> <li>学級・学年単位で仲間作りを意識的に組織する活動を取り入れる。</li> </ul>	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と励まし合い、気力と体力をつける。</li> <li>放課後から家庭での生活を整え、規則正しい時間で生活をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジワークで、「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。</li> <li>終学活を利用して「その日の学習計画」を立て、実行する。</li> </ul>	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。</li> <li>「翔洋のよさ」を意識し、愛校心を育て、便りにすることで、地域へのPRを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年便りなどに日々の活動を載せ、生徒の感想や成長を記す。</li> <li>学校説明会や小学校への訪問説明会でのPR資料の充実に力を貸す。</li> </ul>	B

A

□ 2 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に課題に取り組む姿勢を養い、授業の予習・復習を習慣化するとともに、漢検・数検・英検などの各種検定の受検を促す。</li> <li>学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結び付け、明確な将来像を描かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>終学活を利用して、「その日の学習計画」を立てさせ、実行させる。</li> <li>「職業調べ」や「職場体験学習」などにより、様々な職業について知識を身に付けさせるとともに、働くことや学ぶことの意義を考えさせる。</li> </ul>	A
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の課題「Challenge Now!」の提出を徹底する。必要に応じて個別指導を実施し、学力の定着を図る。</li> <li>家庭との連携を密にすることで相互の理解と協力を深め、学力の伸長と生活の安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解消のための放課後学習会や休日学習会を随時行う。</li> <li>学年だよりを定期的に発行して学校の情報を家庭に提供するとともに、家庭訪問や面談・PTA活動等を通して、家庭との連携を図る。</li> </ul>	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を尊重し、心のこもった挨拶や称賛ができるようにする。</li> <li>各自の仕事に責任を持って自主的に取り組ませるとともに、仲間と協力し合う姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が進んで挨拶することで、生徒のロールモデルとなる。</li> <li>仲間や集団の良い点を生徒に紹介することで、目指す姿を気付かせ、称賛の気持ちを拍手で表現させる。</li> </ul>	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と励まし合い、気力と体力を身に付けさせる。</li> <li>放課後から翌日の登校までの生活を、合理的に計画させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジワークで、「全員一斉のゴール」を目標に取り組ませる。</li> <li>終学活を利用して、「その日の学習計画」を立てさせ、実行させる。</li> </ul>	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の記録や生徒の感想を掲載した学年だよりを、毎週末を基本に発行する。</li> </ul>	A

B

□ 3 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	・ SAT に向けて基本的な生活習慣を身につけさせ、学習習慣の確立を図る。	・ 課題解消のための放課後学習会・休日学習会を定期的に行う。 ・ 家庭訪問や面談・PTA 活動等を計画的に行う。面談等の内容を吟味し、タイミングを逃さず、支援を行う。	A
全員の進路希望実現	・ SAC、SAT を通して、前期課程の学習内容を確実に定着させる。 ・ 学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結びつけ、明確な将来像を描く。	・ 「職業レディネステスト」や「大学見学」を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。	A
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	・ 他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持つてる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。	・ 明るく元気な挨拶、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。	B
心身鍛錬及び健康管理の充実	・ 文武両道を目指し、積極的に部活動に参加する生徒を育成する。	・ チャレンジウォークで、「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・ 充実した学校生活を送ることで、保護者への PR を図る。	・ 活動の記録や生徒の感想を学年だよりに掲載し、週 1 回発行する。	A

A

□ 4 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	・ 「三点固定」指導を軸に基本的な生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・ 将来の進路の参考となるよう、進路講演会を実施する。	・ 「生活記録表」をチェックし、生徒に家庭学習時間の目標達成を促す。 ・ 課題提出率が 90%以上となるよう、生徒に繰り返し粘り強く指導する。 ・ 進路講演会は生徒の意識を啓発する内容となるよう、計画・実施を行う。講演会実施後に教員が内容等について評価する。	B
全員の進路希望実現	・ 進路学習の充実や文理選択の決定を通じて生徒の進路意識を明確にさせ、志望校決定に結びつけさせる。	・ 志望校・志望分野決定者が 100%となるよう生徒に指導する。 ・ 「進研模試」で偏差値 58 以上が 35 人以上、偏差値 50 が 50 人以上になることを目指し、事前・事後の指導を行う。	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	・ 教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。 ・ 教室内の整理整頓・清掃活動の充実を通して、生徒の公共心を培う。 ・ 服装・身だしなみ指導、規則の遵守を徹底する。	・ 生徒への指導や教員の見取り等で、いじめを防止する。「生徒アンケート」も実施する。 ・ 清掃を徹底するとともに、各クラスに整美係を設け、教室内の美化に努めさせる。 ・ LHR や SHR の時間を利用し、規則の順守について指導する。	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	・ 知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。	・ 部活動の加入率 70%以上を目安に、HR で積極的な参加を呼びかける。	C
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・ 充実した学校生活を送ることで、保護者への PR を図る。	・ 活動の記録や生徒の感想を学年だよりに掲載し、週 1 回発行する。	A

B

□ 5 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標を明確にさせ、志望校・志望分野を決定させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会研修旅行における企業訪問や大学訪問など一連の活動を通じて、職業観の育成や卒業後の進路目標の設定を目指す。</li> <li>・自己分析をや小論文、グループディスカッションを通じて、自身の適性や興味関心など自己を深く理解させるようにする。</li> </ul>	A	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい生活習慣を確立させ、週30時間の家庭学習を習慣化させる。</li> <li>・計画的な学習を行わせ、進路希望実現のための学力の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3点固定」指導を軸に指導する。</li> <li>・生徒と保護者対象の進路講演会を年2回行う。</li> <li>・模擬試験の事前事後指導の充実を図る。</li> </ul>	C	
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。</li> <li>・社会の諸問題に対して意識を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と副任が連携して個別面談を行うなど、学年団として教育相談の充実を図る。</li> <li>・小論文やグループディスカッションを行なわせ、自ら考える機会を与える。</li> </ul>	A	
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活記録表」の記載や学校での様子に気を配り、指導が必要な生徒を早期に発見するよう努め、面談等を通じて指導を行う。</li> </ul>	A	
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の記録や生徒の感想を学年だよりに載せ、週1回発行する。</li> </ul>	B	

□ 6 学年

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアに関する意識を高める。</li> <li>・家庭学習時間の目標達成率50%以上。</li> <li>・課題提出率90%以上。</li> <li>・進路を明確にさせ、志望校・志望分野を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい勤労意識を持たせるため、学年通信などで情報提供を行う。</li> <li>・課題をこまめにチェックし、未提出のものに提出を呼びかける。</li> </ul>	B	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試センター試験における国公立大学型受験率90%以上。</li> <li>・国公立大学進学率50%以上。</li> <li>・難関大学進学率10%以上。</li> <li>・進路講演会を保護者向け、生徒向けに向け開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業の内容をアップさせるよう各教科で努力していく。</li> <li>・容易に私立大学受験にシフトしないよう面談を通じ、指導していく。</li> <li>・講演会を企画し実施していく。</li> <li>・補習や個人指導を充実させ、難関大学を志望する生徒の希望をかなえる。</li> </ul>	C	
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学年・学級づくりや集団づくりを行う。</li> <li>・人権教育を通じ、人権意識を高める。</li> <li>・行事に積極的に参加し、クラス意識、学年意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を詳細に分析し、早めに面接を行う。</li> <li>・挨拶や清掃をきちんと行うよう、日頃より細かく指導する。</li> <li>・行事への積極的参加を促す。</li> </ul>	A	
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活記録表」の点検を行い、生徒の実態を把握する。</li> <li>・気になる生徒への対応を速やかに行い、また定期的に面談を行い、生徒の精神面のサポートを行う。</li> </ul>	A	
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の記録や生徒の感想を学年だよりに載せ、週1回発行する。</li> </ul>	B	

□国語

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストの合格率が80%以上となる。</li> <li>課題の提出率が90%以上となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストでは、漢字・古文単語・漢文句形を中心に基礎学力の定着を目指す。</li> <li>再テスト等を実施し、全生徒の基礎学力定着を目指す。</li> <li>テキストの問題を中心にした課題を提示し、読解力をつける。</li> </ul>	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力推移調査において、全国偏差値54以上が50%以上となる【前期課程】</li> <li>進研模試において、全国偏差値58以上が50%以上となる。【後期課程】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬試験・学力推移終了後、各授業で復習を行う。</li> <li>日々の授業において、語句・古語などの予習を促す。</li> <li>板書・プリントなどを工夫し授業に集中させる。</li> <li>読書習慣をつける。</li> </ul>	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文・古文・漢文の各教材を通して、公共心・規範意識の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に集中して取り組ませる。意見発表やグループ討議など、生徒が考えて活動する時間を増やす。</li> </ul>	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな教材を通して人間を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文分野、古典分野の教材を通して人間というもの理解し、そこから自己や他人を理解する力を身に付ける。</li> </ul>	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方と適切なコミュニケーションを図ることができる言語能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語の使用など、状況に応じて適切な言葉使いができるようにする。</li> </ul>	A

□社会

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりがわかりやすいノートをつくり、授業内容を的確に理解できる力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前に、「授業のめあてと流れ」を提示する。</li> <li>生徒の理解がはかられるように配色・ノートを意識した板書を行う。</li> <li>ノート提出の際、きちんとまとめができていない生徒に個別指導を実施する。</li> </ul>	A
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の50%がSAT本試験で達成、再試験後に、合計80%の生徒が達成する。【前期課程】</li> <li>5年進研模試で偏差値58以上の生徒が50%以上</li> <li>センター試験で7割以上得点した生徒が50%以上【後期課程】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テスト後の「振り返り」を確実に行わせ、理解できていない事項の定着をはかる。</li> <li>前期課程では、単元ごとに小テストを実施し、教科書内容の定着をはかる。</li> <li>後期課程では、模試や大学入試問題を活用し、国公立大学入試に対応できる学力の養成と意識づくりをはかる。</li> </ul>	C
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業をとおり、人権尊重の意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の授業で、人権問題を取り上げ生徒に問題点とその解決のために、自分たちができることについて考えさせる。</li> </ul>	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を欠かさず提出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として毎週各学年ともに課題を課し、毎週期日を守り提出することを徹底させ、自己管理能力や規律性を身に付けさせる。</li> </ul>	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文コンクールなどに積極的に応募する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は中学生の「税に関する作文」に全員応募する。</li> <li>3年生は人権に関する作文にできるだけ多くの者に応募させる。</li> <li>4年生は「税に関する高校生の作文」に全員応募する。</li> <li>社会のしくみを知り、社会貢献のあり方について考えさせる。それぞれについて事前指導を行う。</li> </ul>	A

□数学

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝テストの合格率が80%以上となる。</li> <li>課題の提出率が90%以上となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝テストでは、基礎・基本を中心とした問題とし、定着を図る。</li> <li>学力に応じた課題を提示する。</li> <li>個別に面談等で対応する。</li> </ul>	B
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力推移調査において、全国偏差値54以上が50%以上となる【前期課程】</li> <li>進研模試において、全国偏差値58以上が50%以上となる。【後期課程】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの模試において、①過去問での対策→②受験→③模試ノート作成→④結果分析→⑤解き直しを行う。</li> <li>定期考査において、①テスト勉強→②受験→③結果分析→④振り返りを行う。</li> </ul>	C
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の開始終了時刻を厳守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。</li> <li>授業計画をしっかりと立て、見直しをもって授業を行う。</li> </ul>	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が48分集中して授業を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。</li> </ul>	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学検定の受験者がのべ30人以上となる。</li> <li>数学検定2級に5名以上が合格する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去問を全員に配付し、動機付けを行う。</li> <li>受験者対象に個別の補習を行う。</li> </ul>	B

□理科

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<b>【前期課程】</b> ・学習意欲が向上する授業展開を行い、理科好きの生徒を増やす。 ・後期課程の物理、化学、生物担当教員による出前講座や、後期課程の授業への体験参加を通じ、後期課程に繋がる学習を意識させる。 <b>【前・後期課程】</b> ・配色・ノートを意識した板書を行い、理解しやすい、分かりやすい授業を心がける。	<b>【前期課程】</b> ・年間 20 以上の実験を行い、思考力、推察力を高め、意欲向上に繋げる。 ・出前講座の実施や、後期課程の授業への体験参加を実施する。 <b>【前・後期課程】</b> ・各科目の授業をそれぞれ見直し、教科内での研修を行う。	B
全員の進路希望実現	・生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。 ・基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。	・振り返り学習や再テストを実施し、躓きの早期発見を行う。 ・成績不振者には補習や基礎の反復学習を行う。	A
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	・授業の開始終了時刻を厳守する。	・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかりと立て、見直しをもって授業を行う。	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	・座学と実験のメリハリをつけ、場面に応じた振る舞いができるようにさせる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・理科を通じて、地域に学校を PR する。	・市教育センター主催の「青少年のための科学の祭典」や科学研究発表会・作品展に参加をする。	B

□英語

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	・小テストの合格率が 80%以上となる。 ・課題の提出率が 90%以上となる。	・朝テストの内容を工夫し、各学年に合ったものにする。 ・学力に応じた課題を提示する。 ・個別に面談等で対応する。 ・必要であれば、週末課題や週間課題も設定する。	B
全員の進路希望実現	・学力推移調査において、全国偏差値 54 以上が 50%以上となる【前期課程】 ・進研模試において、全国偏差値 58 以上が 50%以上となる。【後期課程】	・CAN-DO の計画を活かし、年間の細かい計画を立てる。 ・授業をお互いに公開し、質の高い授業ができるように心がける。 ・定期考査の内容を吟味し、適切なものを出題する。 ・模擬試験の事前、事後指導をしっかりと行う。	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	・授業開始と終了の時刻を厳守する。 ・生徒がペアワークやグループワークを協力的に行うよう指導する。	・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかりと立て、板書の書き方、説明の仕方、生徒同士の活動を工夫する。	A
心身鍛錬及び健康管理の充実	・生徒が授業に集中し、自発的に発言する姿勢を育てる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	A
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・英語検定を生徒全員が受験する。 ・受験者の 50%以上が合格する。	・過去問を全員に配付し、動機付けを行う。 ・受験者対象に個別の補習を行う。 ・2 次試験（面接）対策の指導も行う。	B

□保健体育

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	・グループ活動を基本とし、生徒の主体的な学習を目指す。	・班やチームの活動において一人一役を持たせることで、組織的な活動を推進する。	B
全員の進路希望実現	・班やチームの課題を発見・分析し、適切な練習計画を立てることができる。	・単元により、班やチームの課題から練習計画を立てる授業構成を取り入れる。	B
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	・時間を守る意識の醸成。 ・集団の中で、協力し合う意識の醸成。	・駆け足で集合させる。 ・準備や片付けの際に、全員が取り組むように指導する。	B
心身鍛錬及び健康管理の充実	・体力の向上を重要課題として授業を展開し、生徒の体力向上を図る。 ・体力テスト結果を教職員が共有し、生徒の体力向上を図る。	・各単元にバランス良くトレーニングを配置し、指導する。 ・大きな声が出せるように、挨拶・報告・体操等の場面で、声出し指導を実施する。 ・体力テスト結果（学年単位、部活動単位）を教職員に配付する。	B
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	・体育祭等の行事において、整然とした集団行動を図る。	・体育祭の開閉会式における姿勢や挨拶に、より高い意識をもたせ、それを体現させる。 ・集会や各種行事における整列を正確・迅速にさせる。	B

□技術・家庭

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学力の伸長及びキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の学習と社会との関わりを具体的な職業を通して理解させる。</li> <li>・作業中の事故を起こさない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業での指示は、生徒の活動を止め、確実に伝え、徹底する。</li> <li>・職業人とのチームティーチングや職業人講話など、職業人を活用した授業をすべての学年で年1回以上を行う。</li> </ul>	A
全員の進路希望実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が納得のいく作品を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品製作において、計画→製作→評価→改善のPDCAサイクルを取り入れたワークシートを工夫・活用する。</li> </ul>	C
公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の授業での授業のルールを徹底する。</li> <li>・授業の最後の清掃では、班員全員が掃除する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作実習室に授業のルールを掲示する。</li> <li>・それぞれの班員の役割を明記した後始末点検カードを活用する。</li> </ul>	C
心身鍛錬及び健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が納得のいく作品を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品製作において、計画→製作→評価→改善のPDCAサイクルを取り入れたワークシートを工夫・活用する。</li> </ul>	C
地域への情報発信と地域とのかかわりを重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作した作品を校内をはじめ外部から評価してもらう機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翔洋祭に作品を展示し、小学生や保護者、地域の方から評価してもらう。</li> <li>・技術の作品展に出品する。</li> </ul>	A

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化により志願状況が厳しい中、中等教育学校の特色を生かした教育活動を進めることができた。</li> <li>・学校の重点目標を、分掌・学年・教科で共有し、評価することで、めざす学校像を意識して業務にあたった。</li> <li>・囲碁・将棋部、日本文化部の全国大会出場をはじめ、特設水泳部、吹奏楽部、陸上競技部などで上位大会に進むなど、部活動でも成果をあげた。</li> </ul>	総合評価
		B